



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2012～13年度テーマ

親睦と奉仕そして前進

—クラブライフを通じて、青春をたぎらせよう—

編集・発行：情報委員会

日時：平成 24 年 10 月 11 日(木) 12:30～14:30

場所：八王子エルシィ

出席者：64 名 出席率 90%

(会員総数 71 名休会 0 名)

1. 開会 飯田例会委員長

配布資料の確認後、会食が始まり、会食中に吉田会長から 20 件のハッピーコイン（後掲）の披露があった。



2. 挨拶 吉田会長



過ぎしやすい秋の季節となりました。先月の例会以後、今日まで 2 件、当クラブの活動がありました。1 つは、

宇宙の学校で、10 月 7 日に桑志高校での開校式。もう一つは近隣 3 クラブの交流会で、9 月 28 日に 3 回目の連絡会が懇親会を兼ねて実施されました。具体的にはこの後、下山運営本部長、浅川交流担当理事から報告があります。

さて、八王子プロバスクラブ会員の平均年齢が、先月 9 月 30 日現在で、75 歳に到達しました。会の平均年齢が 75 歳になってもこの様にかくしゃくとした方々ばかりがお揃いということは会の貴重な財産です。これからもますます、前向きに

クラブライフを楽しみたいと思います。

この度、京都大学の山中伸弥先生がノーベル医学生理学賞を受賞とのニュースがありました。暗いニュースの多い中、久しぶりに嬉しい話題です。丁度、宇宙の学校の開校式を催した直後でしたので、こちらにも夢が湧いてきた気がします。次世代へのバトンタッチがうまくいけば、こんな素晴らしいことはないと思います。プロバスクラブの活動にまた一つ元気の出るきっかけが生まれました。

3. お客様の紹介とご挨拶

今日のお客様は八王子南ロータリークラブ幹事の山口 進一様です。



「例会は月 1 回でゆったりした 2 時間の開催で、大変出席率が良いこと、卓話はプロバス讃歌の詩句のような向上心のある内容

であった」など、当プロバスクラブの月例会の様子について温かいお言葉を頂戴しました。

4. バースデーカード贈呈

池田会員手作りのバースデーカードが、吉田会長より 10 月生まれの 9 名の会員(敬称略) 荒、大野幸二、岡本、小林時雄、立川、土井俊玄、戸田、古川、矢島に手渡された。



5. 卓話

「メートル法と尺貫法」

永井 昌平会員



当クラブ会員の平均年齢が75才とのこと、尺貫法からメートル法に変わる折には、多くの方が大変苦労されたかと思

いますが、今ではすっかり身につけています。これら「尺貫法」と「メートル法」について、一体、いつ頃・誰が・何の為に作られたかについて話をします。

メートル法

・1790年 フランス国民議会で新しい単位の創設が決議された。

・1791年 地球の1周を4万キロメートルとして1メートルを定義し、メートル原器を作製。

現在での計測では、地球の子午線方向の1周は4万9キロメートル、赤道方向の1周は4万77キロメートル。

ちなみに、日本で初めて地球の大きさを計測したのは伊能忠敬(1803)で子午線上の緯度1度の距離は28.2里。精度0.2%の誤差。

・現在の1メートルの定義

光が真空中を1/299,792,458秒間に伝わる長さである。ヘリウム・ネオンレーザ(6328Å)を使った干渉縞の数で計測する。さらに、超高速パルスレーザでの計測に移行している。

・メートル法を使っていない国

米国(ヤードポンド法) 1875年 メートル条約

・日本におけるメートル法

1885年(明治18年)条約に加盟。

1891年(明治24年)尺貫法との併用。

1921年(大正10年)尺貫法を廃止。

1951年(昭和26年)メートル法を義務づける。

1959年(昭和34年)完全移行。

尺貫法

・尺 手の大きさ 古代中国殷の時代18cm 周の時代24cm 唐時代30cm

・曲尺 周の時代から30cm程度

・日本 大宝元年(701年)大宝令で度量衡の単

位を唐の制度で統一。江戸時代 竹尺(京都) 鉄尺(大阪) これの折衷が現在の尺。

・大宝令以前の尺

縄文尺(35cm 十二進法) : 三内丸山六本柱の建て方。法隆寺や古墳に使われたとする高麗尺は存在したか。古韓尺は。

・現在も残る尺貫法

正式に残っているもの…鯨尺、刃(真珠の質量) 使いやすさで残っているもの…花火(尺玉)、お酒一本(一合)、一升瓶、炊飯器(~合炊き)、畳、坪。

6. 幹事報告 塩澤幹事

・八王子車人形公演(12月9日 いちょうホール) 11月の例会(野外研修)に申込みのこと。入場料は友の会々員並の4,100円。

・同好会メンバー表の配布。

※麻雀同好会 開催日 毎月第3火曜日に訂正。

・恒例の近隣プロバスクラブ(多摩、日野、八王子)の交流会が先月開かれ、先ず、卓話の交流から始めることになりました。今後同好会の交流が広まっていくものと想定しています。

・野外研修の日程が決まり、担当者から説明があります。

・生涯学習サロンの件、当面の課題として、如何にして一般会員を増員するかです。これまで70数名ほどの参加者並びに各種団体に働き掛け、新たな会員勧誘のための方策を練っています。

・11月17・18日開催の第33回八王子いちょう祭りには、多くの方の協力をお願いします。

・情報委員会発行のプロバスだよりは、内容的に写真の配列も整然とされ、読み易いものです。

・八王子「宇宙の学校」には、とくに開校日には多くの方のご協力をお願いします。

7. 各委員会報告

(1) 例会委員会 飯田委員長

・会員総数71名、出席者64名 出席率90%。

(2) 情報委員会 寺田委員長

・今回配布した第203号から掲載写真に会場の様子などを採り入れ、おもむきを変えてみました。

- ・第203号7頁の投稿文「春の花々」の写真①トサミズキと②オオバイ(黄梅)とを入れ替え修正。
- ・投稿をお願いしている方、提出をお願いします。

(3) 会員委員会 橋本晴重郎委員長

特になし。

(4) 研修委員会 土井俊雄委員長

- ・11月8日(木) 野外研修には現在40名の参加者です。あと4,5名の余裕があります。

(5) 地域奉仕委員会 橋本鋼二委員長

- ・生涯学習サロンは、開講日2月28日 特別講話「(仮)世界の船旅を語る」 講師元飛鳥船長稲垣猛先生、3月2コマ、4月に1コマ、4月25日 野外サロン“富岡製糸場”をベースに進めています。

閉講式5月9日 特別講話「(仮)老いを科学する」 講師東京理科大学田沼靖一先生予定。

- ・生涯学習サロンの一般参加者の増員を計るための資料を作成配布します。多くの方に呼びかけをお願いします。

- ・第33回いちょう祭りへの協力参加につきましては、各委員長へ資料を配布してお願いしています。従来通り、皆様のご協力ご支援をお願いします。

8. 交流担当 浅川理事

近隣プロバスクラブ三者(多摩、日野、八王子)の交流を深めるための打合せを行いました。今回は、ゴルフ同好会の責任者も加わり、合同コンペの開催について話を進めています。

囲碁同好会についても時間的、経済的に支障がないので交流が望めるようです。

卓話の交流については、先ず多摩クラブの方を来年2月の八王子例会にお呼び出来るよう研修委員長が具体的な交渉に入る予定です。

今後、他の同好会の交流も広がるものと期待しておりますのでよろしくお願いします。

9. 「宇宙の学校」報告 下山運営本部長

第1点目、10月7日桑志高校で「宇宙の学校」が開校しました。的川先生が特別講演の予定でしたが、已む無い事情でKU-MA副会長の遠藤純夫先生が代って講演をして頂きました。

全員で60組のところ53組の参加でした。高校生が受付、案内、後かたづけをやり、星砂で星座絵を描こうというのも全て高校生が行いました。参加の子供達も1時間の長い講演を耐えて聞いておりました。面白かったようで、先ずは順調なすべり出しであった。次回出席率がカギになると思います。プロバスから21名、来賓の方々と桑志高校のスタッフの方々を含めて、約170名で開校式が行われました。

第2点目、10月21日の件ですが、本部会場は子ども科学館で開校式が行われます。70組を採用して開校することになっています。特別講演はJAXA準教授でハヤブサIIの実際担当されている曾根理嗣先生にお出で頂き、プラネタリウムの投映があります。是非参加して頂きたい。駐車場の都合により、相乗りなどでお出下さい。

第3点目、10月28日 桑志高校で第2回目になります。体育館で“熱気球を上げよう”と“ロケットを飛ばそう”の面白い取り組みをすることになっています。桑志高校の学校運営管理上、はっきりした任務の方以外の制限をしたいとの学校の意向ですので、参加の方は事前に本部に名前を云って頂いて、時間内に来て頂くようお願いいたします。

第4点目、11月11日は本部会場での第2回目になります。場所は教育センターです。自由に出入りが出来ますので大勢の方に見学して頂きたいと思います。

「宇宙の学校」開校式

運営本部委員 馬場征彦

今年度の“八王子「宇宙の学校」”は、昨年度実績と支援の広がりにより二会場に拡大しました。都立桑志高校会場(以下桑志会場)では10月7日(日)に同校と市立第五小学校の協力で53組の受講者を含む約170名が出席し、本部会場では10月21日(日)にサイエンスドームへ受講者60組を含む約190名を集めて、それぞれ開校式を行いました。桑志会場では卒業生を含む15名の生徒の活躍が印象に残りました。

桑志会場は小沼好宏校長、本部会場は牛山清志こども科学館長の司会によって開始し、石森孝志



八王子市長から八王子「宇宙の学校」（以下八宇校）・顧問の立場で「八宇校が子供たちの好奇心を大きく育てる場になることを期待する」との挨拶を頂き、坂倉仁八

石森八王子市長

王子市教育委員会教育

長から八宇校・実行委員長として「多くの支援を受けて、今年は二会場に拡大できた。

受講者のこどもは勿論保護者も本校の重要な対象者であるのでよろしく」とのお言葉に引き続き「開校宣言」がありました。来賓として小田原榮教育委員会委員長、本部会場では株式会社スリーボンド・南克彦秘書室長と株式会社エイビット・檜山竹生代表取締役の出席を頂きました。

その後、桑志会場ではKU-MA（子ども・宇宙・未来の会）の遠藤純夫副会長から“「宇宙の学校」と日本の子どもたち”という題で講演頂きました。要旨は子どもたちに”冒険心、好奇心、匠の心”を持ってもらいたいこと、それを育てることが「宇宙の学校」の目的であるということでした。本部会場ではJAXA曾根理嗣准教授から「宇宙の探検家になろう」という題で講演して頂きました。要旨は先生ご自身が子どものころ探検家にあこがれ、さらには宇宙飛行士をめざしたこと、参加した「ひので」・「かぐや」・「はやぶさ」等のプロジェクトについて具体例で説明され、未知を探る探検家になって欲しいというものでした。子どもたちとのQ&Aもありました。

引き続いて本部会場では、宇宙と地球をテーマに幻想的映像のプラネタリウム投影がありました。



曾根准教授

次に両会場ともに、受講者親子に受講ガイダンスを行いました。



その後、桑志会場では第1回スクーリングとして”星砂で星座絵を描こう”が実施されました。種子島の砂浜から採取した砂の中には、有孔虫類（タイヨウノスナ、ホシズナ、ゼニイシなど）が含まれており、これを見つけ出して星座の星になぞらえて星座絵を作るという実験でした（本部会場のプラネタリウム投影の代わりという位置づけ）。

最後に、両会場とも次回からのスクーリング内容のうち、「静電気で遊ぼう」、「万華鏡を作ろう」、「コマをつくろう」、「ストローロケットを飛ばそう」について、テクニカルスタッフを中心に事前の実験学習を行いました。



10. 同好会報告

ゴルフ同好会 米林会員

・今年最後のゴルフコンペを12月4日（火）に相武カントリーで開催します。参加申込は、今日中をお願いします。尚、集合時間の変更：7時20分を7時40分に訂正。

・近隣のプロバスクラブ（八王子・多摩・日野）との交流ゴルフコンペについて、9月28日に各クラブの世話役との会合を持ちました。その結果、来年から年2回（春・秋各1回）、年度幹事を決めて実施することになりました。来年度の幹事は八王子、翌年は多摩、翌々年は日野PCです。

・当クラブの年間コンペ回数を、従来の3回から2回に変更できればありがたいです。

歴史の会 土井俊雄会員

前回の例会時に「徳川家・明治維新ゆかりの旧跡地探訪」の提案に、申込み者が現在 18 名です。マイクロバスに 3~4 名の余裕がありますのでご参加ください。

俳句の会

同好会メンバー表の作成有難うございました。9 月に石田文彦会員が入会され、メンバーは 9 人となりました。

写真、茶道、囲碁、麻雀、美術、旅行同好会

特になし。

11. その他

八王子いちょう祭りについて

佐々木 研吾

いちょう祭り祭典委員会の方からご案内（内容の宣伝）とご協力のお願いを申し上げます。

先ず、案内チラシ・資料は、次回の例会（野外研修、欠席者へは郵送）で配布予定です。

今年の開催日は 11 月 17 日（土）、18 日（日）の 2 日間です。今回は第 33 回です。33 回に引掛けて三國の結び “武蔵・相模・甲斐の國” これと “みらい みつめて” というテーマで開催します。

現在、参加団体、模擬店舗の出店の申込みが殺到し、その調整に悲鳴を上げている状況です。

三國の結びの関係で、相模原市、上野原市、町田市及びあきる野市などから物産店が出店する予定です。

ハードの面では、参道（甲州街道側入口から参道のけやき通りの近藤内科医院まで）を歩行者天国にする予定です。また、陵南会館事務所周辺を舗装しました。

催しものの中で好評だった “ミニSL” “動物ふれあいひろば” “プロ野球ジヤンツのOBが野球の指導” “猿まわし 太郎 次郎一門” が参ります。是非ご家族でご来場下さい。多くの広告媒体に掲載、街にはポスターを張る予定です。

つぎにお願いですが、陵南公園の中ほどに本部を設けます。ここで受付け、案内、場内監視等を行って頂きます。午前、午後各 3 名、2 日間で延べ 12 名の方々、よろしく申し上げます。

お知らせ

山形 忠顕

NHK総合テレビ 毎週金曜日午後 8 時放送

“キッチンが走る”の八王子版が 10 月 12 日（金）に放送されます。楽しい番組なので、是非ご覧ください。

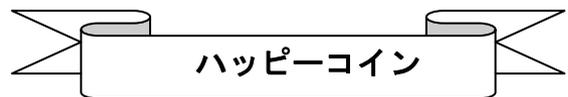
12. プロバスソング斉唱



13. 閉会の挨拶 荒副会長

自分の部屋がだらしく散らかっているので、自動掃除機を買いました。円盤状の直径 30 数センチの機械で、部屋の家具の配置などを自動的に感知・記憶して、部屋の隅々、ベッドの下まで、綺麗に埃を吸い取ってくれる、優れモノです。

しかし、始は大変でした。それで、ロボットが掃除をし易いよう、家具やパソコンの配置を変えるなど、本も不要な本は、廃棄処分をして、スッキリした部屋に致しました。これでお掃除は自動的に 90%以上完ぺきになりました。ところで、また大問題が発生しました。パソコンの配置を変更するとき、接続機器の配線を一旦はずして、再度接続したら、パソコンにトラブルが発生し、メールが数日間、不通になってしまいました。ご迷惑をお掛けした方には、この席をお借りして、お詫びいたします。



- ◆今日は誕生日です。 戸田 弘文
- ◆10 月 12 日 54 回目の結婚記念日となります。 竹内 賢治
- ◆池田会員の美しい誕生日カードが又 1 枚ふえました。嬉しいのか悲しいのか…健康に感謝です。 立川 富美代

◆金婚式 今月 15 日は私共の金婚式となります。家族ともども一緒にお祝をします。これも皆様のお陰です。有難うございます。 濱野 幸雄

◆高 1 の孫娘が、ピアノ教室の発表会でトリをつとめ、ショパンの幻想即興曲を熱演しました。

佐々木 研吾

◆秋を感じて!! 半袖から長袖に、そしてもう一枚はおる。早朝のウォークの心地良いこと、ふだん 10 歩で歩くのを 8 歩で、少しおおまたで、スピードを加え下半身の筋肉を使う歩き方で公園を楽しむ秋!!

宮城 安子

◆嬉しい 10 月の始まりです。①7 日、神戸の「布引ハーブ園」で親友（神戸国際会館社長）のリサイタル。②8 日、父母の結婚式を挙げた所（元陸軍病院跡）を訪ね、新婚旅行の「有馬温泉」行。③9 日、世田谷小学校 5・6 年時の恩師（クラス担任）に 62 年ぶりに再会、5 時間余の歓談でした。

山形 忠顯

◆“「がんばれ三陸鉄道」「ありがとう山形鉄道」東北 2 大ローカル線の旅” ツアーに参加。東北の復興に全力投球している絆＝熱い友情で結ばれた両鉄道だ、頑張れローカル線!!

武田 洋一郎

◆稲の穂が重くたれています。悩まされたこの夏の暑さは、稲に快適だったようです。今年も豊年満作、ハッピーな実りの秋です。

河合 和郎

◆私達シニア・ダンディーズは 9 月 6 日（水）開設したばかりのシルバービレッジ八王子で慰問奏会をしてきました。皆さん楽しんで聞いて下さり、私達も心豊かになりました。

岩島 寛

◆台湾の新幹線に乗ってきました。中国の新幹線に比べると速度は遅いようでした。今月はタイの鉄道に乗って来ます。

野口 浩平

◆モンゴル旅行紀行文集が出版されました。見事な出来栄えに感動してツーコイン

渋谷 文雄

◆出雲大学駅伝で母校の青山学院大学が初優勝を遂げた。来年の箱根駅伝に大きな期待が出来るゾ。

宮崎 浩平

◆10/7 今年最初の八王子「宇宙の学校」が桑志高校で開催されました。プロバスからも 20 名もの会員の皆様に参加して頂き、子ども達や高校生活活動をみて頂きました。ありがとうございました。

澤渡 進

◆山中信弥教授のノーベル生理学・医学賞の受賞を心よりお慶び申し上げます。さらなる応用研究に期待しています。

飯田 富美子

◆山中教授 ノーベル賞 万歳! 「宇宙の学校」の子ども達よ。続け! 山中先生に! 下山 邦夫

◆京都大学の山中信弥先生がノーベル医学生理学賞。暗いニュースが多い中、本当にハッピー。

吉田 信夫



義母への老老介護 【やまな い雨はない】

熊田真瑜美



読売新聞に以前募集小説で、「母の遺産」という題でその紙面一面を使って毎週土曜日に、確か 3 カ月以上継続

で掲載された事がある。それを読み続けた時、私は小説の中の母親は「我儘娘がそのまま育った状態で、娘を心身共に犠牲にしていた。」主人公は長女で、次女は遺産だけはしっかり取り、のほほんと我れ関せずと主人公が後始末に忙殺されていた話だった。

私はそれを読んで私よりましよ…と思いながら毎週読んだ。それは内容が面白いというより自分と比べ続けていたのかもしれない。老いてもまだ見栄を張り続ける母親にてんてこ舞いさせられ、わがままを通し続けて逝った後のむなしさの話である

そして私は、老老介護とまでは言えないかも知れないが、親を持つ身にはこの主人公と同様天を仰ぐ心地です。

母は独居老人なので 1 週間に 1 回必ず実家に行く。私は昨年両股関節の骨挫傷の上、股関節の大きな骨もひびが入り割れる寸前で緊急入院となり、骨が崩れているので手術は出来ず薬剤アレルギーの為、鎮痛剤・抗生剤が使えずひたすらシップ剤のみで、絶対安静の入院生活。そして退院後も歩けず杖は 1 年以上必要とした。しかし母には心配かけるので、細かい説明はしなかったので私の状態を理解できない。階段は登れないし、労

働力は提供できない状態で内心イラついていて、確かに90歳近いのだから分るが、本人は建前としては私の世話になりたくないのだ。

義母の方が私より数段元気で足も丈夫だが、90歳の年のせいとかにかく転ぶ。決して目を離せる状況にない。なのに、実家に体調が悪くて行けない連絡をし、怪我してないか、具合悪くないか尋ねるが大丈夫と答える。が、実は風呂の掃除でプラスチックの靴を履いて滑って転び動けなくなっていたり、先日も物に突っかかって転び動けなくなり、タクシーで整形病院へ行って寝込んで連絡をしない。そして実家へ行くと、うらみがましく大変だったと言いつのる。

掃除も台所の洗い物も独特の潔癖感で人の仕事を認めない。怪我で食事を運んだ時も全部家で作り、入れ物は洗わず持ち帰って来た。衣類を届ける時もクリーニングして持って行ったのに洗濯機で洗い、大きいからいらないと返してくる。人の好意は受け付けない。

その上、怪我をしてタクシーで病院へ行ったと言いながら、1階のベランダの上のスレート屋根に昆虫が乗っていたからと二階の屋根の瓦に乗って、瓦と瓦の間につかまって箒で叩いたという。何と言うことか。嫌がらせのようなやり方のため息が出る。危ないでしょう…と言うと、血相を変えて正当性を主張する。人の話は聞かない。昔からだ、とにかく周りの人と争いを起こす。

どんなに食べ物を作って持って行こうが、そのまま冷凍して食べてない。なぜ食べないのと聞こうものなら、そんなに食べられないよ…持って来ないでいいから…と拒否して次から付き返す。

あまり転ぶので要支援の買い物の付き添いと、掃除を頼んで許可が下りたのに自分で断ってしまう。寂しいのではと思いつつ、転ぶのでリハビリを含めバスのお迎え付きのデイサービスを申し込み、9月から通う事の契約をした。少しでも友人が出来れば、又人の目が1週間に1回でも見ていただければと思ったのです。リハビリ用のTシャツを持っていくと、比較的新しいものを洗ってアイロンかけたにもかかわらず、又新しいからいらないと洗濯しアイロンをかける。そして付き返してくる。妹は我慢が出来ずもう何年も近く

に住みながら、盆正月も行かずハガキも出さない、縁を切ったような生活なのだ。でそれも良いと私は思っている。

母は、実母ではないがもう60年以上の付き合いにも関わらず常に他人行儀で構うなという態度である。しかし、一緒に暮らせば母である事に違いない。一人くらい嫌なら行かないでも良いと私は思っている。母も本当は寂しいのだろうと思いつながらも、どうにもならない義母の姿である。

私も家では夫に買い物や手のかかる事は頼まないと出来ない身体なので母の要求はかなえられない。そのために傷害保険も加入してそれなりの膨大な金額は受けとっているが、自分の通帳に直接入る為にそれが労力に替わる代償とは、いくら説明しても納得できないようである。その時理解できて時間がつと又同じことを言い始める。

老老介護とは現実には頭の中がパンクしそうである。母も又同じ思いなのであろう。「止まない雨はない」と仏様の教えに有る。人に優しくと心に置きながら、ままたらずに天を見上げる。

「苦しい胸の内」は自分の我であろうかと思いつなおし、自分の考えに固執して母のせいにしていいのかと思いつなおすが、老老介護とは「我」を捨てる事かも知れない。90歳の母の性格はもう治るはずがないのだから、残り少ない人生を見守る事に自分が納得しなければ母もかわいそうなのだ、先日、二人とも残り少ない命なんだから喧嘩をしかけるのは止めようよ…と言ったら黙って下を向いていた。本人も納得しているのである。そう「止まない雨はない」のです。

だが、自分を納得させても母の不満は解決しない。せめて身体の自由が利く間は、福祉サービスの形で仲間と楽しく過ごせる時間がもう少し許されればと思うのです。

野田総理が、今の国の財政状態では将来の福祉への財源は確保できない。消費税の値上げは、必要だとその案件については抵抗勢力にもぶれない姿勢で通した。決して内容は満点でないが、要求ばかりは無理な事としても何とか将来の高齢者に対する予算が人間らしく生きられるように使われればと願うのです。

そう「止まない雨はない」と天を仰ぎ老老介護の日々です。

俳句同好会便り

私の一句～10月の句会から

河合 和郎

10月の兼題は「秋惜しむ」。難しい季題に皆さん苦労された様子。

山小屋を閉ぢる槌音秋惜しむ 田中 信昭

兼題句として秀。「また来年まで」という寂しさと期待感が込められている。槌音が心に響く。

台風も夜遊び好きか朝は晴 馬場 征彦

本日のユーモア賞。台風を俳句の題材にして遊ぶ作者。力を抜いたこんな創作も俳句の醍醐味。

秋惜しむ甲斐駒岳に夕日さす 飯田富美子

今月の秀句。雄大な山のたたずまいに秋の終りを見た。女性の句とは思えない力強い一句。

里の山木漏日ゆれて秋深む 阿部 治子

里山の木漏日の中に深まり行く秋を感じる作者。俳句的な視点と感覚で自然に接する喜びがある。

六十年超えて恩師と秋惜しむ 山形 忠頭

六十年を超える恩師との交流。先生から見るといつまでも生徒は昔のまま。思い出は時を越えて。

秋の宵生命落ちゆく砂時計 渋谷 文雄

「命が落ちる」とは怖いほど迫力ある表現。命の砂は休みなく落ち続けている。例外はない。

曼珠沙華火の国からの贈りもの 石田 文彦

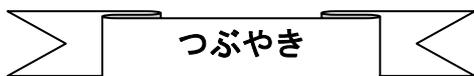
大胆な発想。あの鮮やかな赤の色は火の国の花なのか。俳句は空想の世界にも遊ぶことができる。

暑さ負け手足無用のだるさかな 東山 榮

「手足無用」とは思い切った表現。俳諧的ジョークの妙。残暑に負けない創作の力は無敵。

ローカル線北の大地に秋惜しむ 河合 和郎

車窓から過ぎ行く秋を惜しむ旅。こんな旅をしてみたいという願望も込めて。



またまた「宇宙」からの引用で人類史上初めての月面の土を踏んだアポロ11号宇宙船の船長だった飛行士、ニール・アームストロングが、8月

25日に亡くなった。月面着陸のニュースは今でも覚えている。

「宇宙の学校」では子ども達の、心に火をつけることを念願している、その心を好奇心・冒険心・匠の心のトライアングルで指し示している。本当に大切だと思う。

的川博士の「宇宙の学校」のコラムにアームストロング船長との会合の思い出話などが載っていて興味深い。船長は「まあ月へ行くとしたら生きて帰れないかもしれないと思っていたよ」と語られていたとか。そのコラムの最後にある言葉がとても印象的だったので紹介したい。

昨今の我が国のいろいろな困難、凋落を聞くにつけ、日本人が勇気を失ってはいけないと思う。今の日本にとって鋭い警告のように的川先生が添えられたのであろう。

民族が大きく、たくましく栄えたのは、その息子たちが冒険を愛したからである。そして、民俗が衰え、没落したとすれば、それはただ、その息子たちが冒険への喜びを失ったからにすぎない。

——— ヘンリー・ヘイク ———

(KS)

(編集後記) 中山教授のノーベル生理学・医学賞の受賞、八王子「宇宙の学校」の開校。子供たちに科学の夢を抱けるきっかけになればと思いつつ編集しました。 阿部 和也